

## 第 55 回東京実技セミナー 開催報告



開催日:2017年10月8日(日)

時間:10時~17時

開催場所:ラックヘルスケア株式会社 東京オフィス

主催:NPO 法人 口から食べる幸せを守る会®

共催:ラックヘルスケア株式会社

後援:株式会社クリニコ 日清オイリオグループ株式会社 渡辺商事株式会社 株式会社大塚製薬工場

<敬称略>

### 開催目的

本セミナーは、KTBC ツールを用いて、対象者を包括的に支援するための基本事項や展開方法が理解できることを目的として開催します。また、支援のスキルアップが図れるよう、講義・グループワーク・実技演習などを組み合わせて実技指導を行います。

### KTSM 実技認定者(講師・アドバイザー)一覧

<敬称略>

氏名	所属	職種(摂食嚥下に関する資格)
小山 珠美	NPO 法人口から食べる幸せを守る会® 理事長	看護師 日本摂食嚥下リハビリテーション学会認定士 KTSM 実技認定者

### セミナーサポート一覧

氏名	所属	職種(摂食嚥下に関する資格)
金 志純	社会福祉法風会 東京小児療育病院	摂食・嚥下障害看護認定看護師 KTSM 実技認定者
劔持 君代	群馬リハビリテーション病院	看護師
福岡 碧	NPO 法人口から食べる幸せを守る会®	事務員

## アンケート集計結果（参加者 29 名、アンケート回答者 11 名）

### 職種

11

回答	票数	%	
医師	1	9%	
看護師	5	45%	
歯科医師	1	9%	
歯科衛生士	1	9%	
栄養士・管理栄養士	0	0%	
言語聴覚士	1	9%	
作業療法士	0	0%	
介護職	0	0%	
薬剤師	0	0%	
その他	2	18%	

### 勤務施設

11

回答	票数	%	
病院	6	55%	
施設	1	9%	
診療所	2	18%	
在宅訪問	0	0%	
その他	2	18%	

### 経験年数

11

回答	票数	%	
1～4年	3	27%	
5～9年	3	27%	
10～19年	0	0%	
20年以上	5	45%	

## 参加前と参加後で考え方がどのように変化しましたか？

- \* 発熱するとすぐに欠食にされていましたが、しっかりアセスメントして食事を継続できることを主治医に発信していこうと思いました。
- \* 患者様が食べられないリスク、弱みばかりを挙げて、リスク回避として食べられないようになってきたことが大きな過ち。研修後、患者様は食べられるはず、そのために私は何をすべきなのか、強みや可能性はどこなのかを探ることが優先されるべきなのだと考えます。医療従事者として、食べることをどう考えるのか、根本的な課題を頂いた。
- \* 食べることができない患者さんはいない、食べることを支援するために、患者さんの強みに視点を向けて、どうしたら安全に食べることができるか、食べ続けることができるか頭で考え、食事介助を実践していこうと思います。あと一歩、前に進んで早期に介入したいと思います。どんな弊害があっても、患者さんの持つ強みとなる力と、自分を信じて介入したいと思います。これからも学び続けていきたいと思っています。
- \* KT チャートは評価するためのものではなく、強みを活かすためのものということ、実感しました。またポジショニング、クッションの入れ方を実際に体験でき有意義でした。
- \* 口から食べることが患者さんにとって、とても重要であることを改めて考えさせられました。そのために確かな知識と熟練した技術を用いて援助をすることができたら、もっと笑顔の患者さんが増え、やりがいを感じる看護師が増えるだろうと強く感じました。
- \* 経口摂取を積極的に進める方向に変化しています。そのために各部門と協力し合えるように働きかけていきます。
- \* 口に運ぶ動作だけでなく、準備段階が大切だとわかった。強いところを伸ばすために何をすれば良いのかという考え方に変わった。”
- \* 今回で3回目の参加をさせていただきました。私の病院では嚥下評価は基本的にSTが担当します。嚥下の評価は命に直接関わる大変スキルがないと担当できない分野であると日々感じています。時に自分の判断に迷いが生じることがあり、その度にストレスを感じ、STを辞めたくなる時があります。今回のセミナーに参加する直前まで、脳血管性の認知症を患う患者様を担当させていただいていました。僕が先生や病棟看護師に「お楽しみでも良いから経口からいかせてください」とお願いしてトライしていましたが、結果、誤嚥性肺炎と診断をされてしまい、現在STは介入できていません。家族も経口から強く望んでいましたし、僕も家族の気持ちを汲み取って全力で対応しましたが、結果としてこのような形となってしまいました。小山先生のセミナーに参加して感じることは、私と同じ悩みを抱えている人や経口摂取にトライしていく熱い思いを持った方が全国から集まるので正直に嬉しい気持ちになれます。「明日からまた頑張ろう」と思えます。今回は特にその思いが一番ありました。結果を残せない悔しい気持ちはありますが、逃げないで頑張っていこうと思います。”
- \* KTBC の活用の仕方が理解できましたので、自信を持って人に伝える事ができるようになりました。問題解決型思考ではなく、利用者の強みを活かして、どのように支援していくかという考え方が重要だと思いました。

## セミナーで学んだことをどのように現場で活かしていきますか？

- \* 先ずは私が KTBC を現場で行いたい。そして、現場の勉強会、運営会議、給食委員会、ケアプラン会議など、他職種との連携に視覚化されたチャートと支援スキルを提示してゆきたい。
- \* 私は一般病棟で勤務しております。入院患者のほとんどが禁食入院です。誤嚥性肺炎や終末期の患者さんがほとんどです。禁食入院となり、食べたいと訴える患者さんは沢山います。禁食期間をできる限り少なくして、経口摂取に移行できるよう支援します。
- \* 委員の間で体験を共有したいと思います。KT チャートについても、今回の考え方を広めていきたいと思っています。
- \* 私が所属する大学の病院には摂食嚥下障害看護認定看護師がいないため、病院の摂食嚥下検討会に所属している脳卒中リハ認定看護師や、NST に所属する看護師にこのセミナーのことを伝えつつ、現状でどのような支援がされているのかをまずは知りたいと思いました。
- \* 全身状態の把握と摂食に関する評価、並びに対策を数多く上げられるよう知識を増やす必要性を痛感しました。技術は今回のセミナーでは少ししか習得できませんでした。意気込んで参加しただけに残念です。
- \* 今回演習でご指導していただいたことは「自己の都合で行う評価や介助は患者様に負担を与えてしまう」ということです。スクリーニングや姿勢調整、介助場面など、自分はまだまだ基本を忠実に実行できていないと実感しました。職場のSTと練習を行い、適切な方法で患者様の対応をさせていただこうと思います。”
- \* 摂食機能障害と診断されている方が早期回復に向かうためにはどのようにアプローチしたら良いのかを KTBC で評価し、多職種で取り組むために活用したいです。
- \* 歯科衛生士は職种的に予防に力を入れるのが得意な分野だと思っています。摂食機能障害という事の知識と予防を広めるために KTBC を活用していきたいと考えています。”

## その他、感想

\* 学び多く、有意義なセミナーをありがとうございました。 小山先生の講義を間近に聴くことができる会場も良く、先生の信念の波動が感じられ感激しました。 今回を第一歩に、まだまだ小山先生に学ばせて頂きたいと思っております。  
参加された方々のモチベーションの高さに感動し、自分自身を振り返る機会となりました。また、小山先生やアドバイザーの方々の助言がとても心に突き刺さりました。今回学んだことを、実践できるよう努力したいと思います。

\* 知識や技術に関しては、セミナーだけでは習得が難しいため、それぞれの受講者がそれぞれの現場で、工夫したり経験を積んでいくことが大切なのだと思います。しかし、医療現場をスタッフから変えるにはハードルがまだまだ高いと思っています。セミナーを受講しただけで終わってしまうように、私たち一人ひとりが熱い気持ちを忘れないことが大切ですが、それを後押しできるような支援ができるように私にできることはないかと考えています。

\* 長丁場でしたが、もっと聞きたい！と思うくらい充実していてあっという間だった。  
実技はグループ全員が体験できなかったのも、もう一台ベッドがあると時間配分的に良かったかもしれない。

\* 実際にお会いした小山先生には、懐深く受けとめてくれる優しさや経験に裏付けられた的確な判断力、素早くまとめる力など、様々な人間力を感じた。先生が先頭に立つことについて行きたくなる人が多いと思う。このように素晴らしい考え方や技が浸透するように引き続き啓蒙して頂きたい。ご多忙のことと思うので、くれぐれもご自愛ください。参加させて頂く機会を与えていただき、有難うございました。”

\* 短い時間でしたが、グループごとに実技演習ができたことはとても良かったと思います。改めて短時間でのポイントの言語化と、受講生としての満足感を同時に感じる事が出来ました。ありがとうございました。  
これからもご指導のほど、よろしくお願い致します。”

## セミナーの様子



午前中はKTBCの展開方法について講義を行いました  
午後はグループ内での事例検討や演習を行いました





皆様、ご参加いただきありがとうございました！

